

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

1. 現状分析

評価項目①

教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定していること。

<評価の視点>

- ・具体的かつ実現可能な中・長期の財政計画を策定し、大学運営にあたっているか。
- ・財務関係比率に関する指標又は目標を設定し、健全な運営を確保しようとしているか。

《財務計画》

- 中・長期的な財務運営に関して、経理単位毎に『中期計画に基づく収支見通し』を策定し、毎年3月の理事会において審議している。当該見通しは今後5年間の収支状況を資金収支・事業活動収支の両面から見通すもので、各部門における事業の執行状況や中期的な事業計画、設備投資計画等を把握の上、必要な財務基盤が構築できているか、資金をどのように確保するかなどについて検証している。

(大財務1-1 中期計画に基づく収支見通し)

- 理事会では、状況に応じて事業計画の見直し・見送りも含めた議論も行っている。特に高額な医療機器の購入に関しては、理事長の諮問機関である「設備投資委員会」において購入の必要性や導入効果、性能評価、収支予測などを事前に検証の上、判断している。設備投資後、その効果を各部門及び財務部で検証しており、今後の将来計画に反映させることで、財務基盤の安定化に繋げている。

(大財務10-1-2 設備投資委員会運営要領)

《財務関係比率》

- 財務運営の健全性・安定性を測る指標として、本学では、「人件費比率」、「教育研究経費比率」、「医療経費比率」、「管理経費比率」、「事業活動収支差額比率」、「総負債比率」、「流動比率」等に着目し、経年で推移を確認している。財務状況は理事会や各学部の教授会に報告するとともに、ホームページでも公表している。

(大財務10-2-1 令和5年度事業報告書 主な財務比率の推移)

評価項目②

教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政基盤を確立していること。

<評価の視点>

- ・教育研究水準を維持し、向上させていくための安定的な財政基盤を確保しているか。
- ・授業料収入への過度の依存を避けるため、学外から資金を受け入れ、収入の多様化を図っているか。また、それによってどの程度の財源が確保されているかが明らかであるか。

《財務基盤の状況》

- 2001(平成13)年度までは総負債が自己資金(純資産)を上回っていたが、法人全体で構造改革に取り組んだ結果、2002(平成14)年度に解消し、「総負債比率」(総負債/純資産)は、1999(平成11)年度の64.3%から2023(令和5)年度には20.3%となるなど、大幅に改善している。
- 金融機関借入金についても、1994(平成6)年度に447億円であったが、借入金の返済を積極的に進め、2018(平成30)年度にすべて完済した。直近では新学部の設置申請基準に合致させるため、金融機関から2021(令和3)年度に50億円、2022(令和4)年度に70億円の借り入れを行ったが、総負債比率は上記のとおり依然として低い水準にある。
- 財務の安定性・健全性を評価する重要な指標である「純資産構成比率」(自己資金構成比率、純資産

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

の総負債及び純資産の合計に占める割合)は79.7%となっている。私学事業団のデータベースから抽出した医科・歯科系を含む複数学部を設置する大学の平均(令和5年度)と比較して同水準であり、良好な状態を維持している。「流動比率」(流動資産の流動負債に占める割合)は351%で、医・歯・他複数学部法人の平均を100%超上回っていることから、財務上の安全性は高く、財政基盤は安定しているといえる。

貸借対照表関係比率

	本学 (令和5年度)	医歯他複数学部 (令和5年度)	(参考)全大学法人 (令和5年度)
純資産構成比率	79.7%	82.0%	86.1%
流動比率	351.0%	247.4%	261.0%
総負債比率	20.3%	18.0%	13.9%
負債比率	25.5%	21.9%	16.1%
退職給付引当特定資産保有比率	36.5%	44.0%	58.6%
基本金比率	99.4%	97.2%	97.3%

(大財務10-2-2 学校法人順天堂 令和5年度事業活動収支計算書)

(大財務10-2-3 学校法人順天堂 令和5年度貸借対照表)

(大財務10-2-4 学校法人順天堂 令和5年度基本金明細表)

(大財務10-2-5 令和5年度 財務比率表)

(大財務10-2-6 財務計算書類(写)2016(平成28)~2023(令和5)年度)

(大財務10-2-7 学校法人順天堂 令和5年度財産目録)

《事業活動収支の動き》

- 臨時的な要素で構成される「特別収支」を除いた、経常的な事業活動の収支バランスを表す「経常収支差額」(教育活動収支差額+教育活動外収支差額)を見ると、近年は収入超過で推移し、債務の縮減など財務改善に寄与していたが、2023(令和5)年度は収入を上回る支出の伸びにより支出超過(33.9億円)に転じた。「経常収支差額比率」(経常収支差額の経常収入に占める割合)も-1.6%になっている。

年度	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
経常収支差額(千円)	5,735,007	5,618,096	7,706,614	5,027,353	-3,390,459
経常収支差額比率(%)	3.2	3.1	3.9	2.4	-1.6

- 「経常収入」の構成を見ると、収入の8割超を占める「医療収入」や「学生生徒等納付金」が前年度に比べて増収となった一方、新型コロナウイルス関連の補助金の縮小により「経常費等補助金」が減収となったことなどから、経常収入は前年度比1.2%増に留まった。これに対し、「経常支出」の構成を見ると、医療収入の増収に伴い「医療経費」が大幅に増加したほか、エネルギー価格の上昇に伴う光熱費の拡大等により「教育研究経費」や「管理経費」が増加したことなどから、経常支出は前年度比5.5%増となった。
- 経常収支差額に施設設備補助金等を含む特別収支差額を加えた「基本金組入前当年度収支差額」も、25年ぶりとなる支出超過(24.9億円)となっている。

(1) 事業活動収入及び外部資金の獲得状況

- 本学の事業活動収入を見ると、2016(平成28)年度以降、年平均4%を超える伸びを続けている。本

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

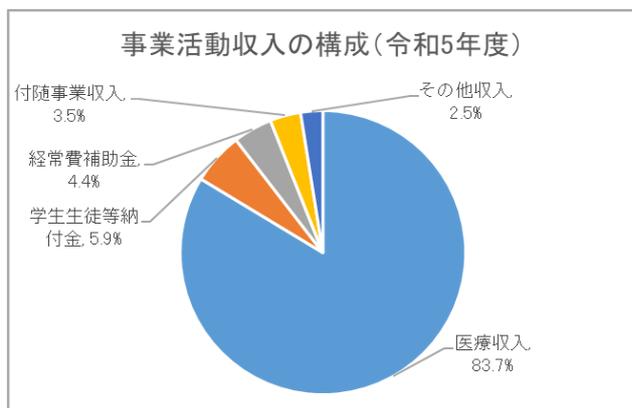
学では、事業活動収入の8割を占める医療収入のほか、学納金収入、国や地方自治体からの各種補助金の交付（経常費補助金）、企業等との受託研究・共同研究の積極的な実施（付随事業収入）など、収入の多様化に努めている。

- 事業活動収入に占める学納金収入の割合が5.9%なのに対し、医療収入は83.7%となっている。学納金収入に頼らない構造となっている。

事業活動収入の伸び率

年度	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	平均伸び率 (過去5年)
前年度比(%)	5.0	2.9	11.2	3.0	1.4	4.6

事業活動収入の構成



- 近年の各収入項目の動向は、以下のとおりである。
(大財務 10-2-8 5カ年連続財務計算書類)

①学納金収入

近年の学部新設や学生定員の拡大により、学納金収入は堅調に増加している。

②医療収入

医療収入は COVID-19 の影響により減少していたが、感染拡大前の水準以上に回復している。高度先進医療を推進したことなどにより、医療収入は増加している。

③経常費等補助金

学外から研究費として受け入れている文部科学省科学研究費助成事業の採択状況を見ると、本学の採択件数は増加している。採択件数は、私立大学約620校中（令和4年度調査結果数）、2019（令和元）～2021（令和3）年度は5位、2022（令和4）年度及び2023（令和5）年度は3位であった。競争的資金の導入を積極的に推進した結果、外部からの研究資金の獲得が伸びている。

科学研究費助成事業の採択状況

(千円)

年度	採択件数	直接経費	間接経費	合計
令和元年度	543 件	878,210	261,135	1,139,345
令和2年度	610 件	888,600	266,580	1,155,180
令和3年度	666 件	994,300	298,290	1,292,590
令和4年度	718 件	1,082,100	324,630	1,406,730
令和5年度	755 件	1,211,400	363,420	1,574,820

(大研戦 10-2-1 令和元年度科学研究費助成事業交付決定一覧)

(大研戦 10-2-2 令和2年度科学研究費助成事業交付決定一覧)

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

(大研戦 10-2-3 令和3年度科学研究費助成事業交付決定一覧)

(大研戦 10-2-4 令和4年度科学研究費助成事業交付決定一覧)

(大研戦 10-2-5 令和5年度科学研究費助成事業交付決定一覧)

「私立大学等経常費補助金」の交付状況を見ると、交付額は安定的に推移している。本学の交付額の大学別順位は、令和元年度は7位、令和2年度は7位、令和3年度は6位、令和4年度は5位、令和5年度は6位となっている。

私立大学等経常費補助金の交付状況

年度	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
交付額(千円)	5,605,420	5,649,858	5,154,176	5,737,158	5,515,161

④付随事業収入

民間企業等からの外部資金の獲得も、安定的な財務基盤を確立するための重要な資金調達方法の一つである。8章及び9章で記載のとおり、企業・学外研究機関等との共同研究活動・産学連携活動に力を入れており、本学の共同研究費、受託研究費は増収傾向にある。

共同研究・受託研究受入実績

年度	共同研究		受託研究	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
令和元年度	161件	1,008,799	308件	1,542,602
令和2年度	224件	1,643,838	355件	1,819,499
令和3年度	248件	2,258,494	456件	2,805,928
令和4年度	275件	2,405,509	459件	2,882,145
令和5年度	286件	2,113,526	473件	3,420,857

⑤その他

資金運用は、『学校法人順天堂資金運用規程』に基づき、安全かつ有利に運用し、その果実をもって本学の発展に資することを目的にすることとされており、これに沿って「資金運用計画」が策定されている。「資金運用計画」は、総務局長・財務部長・実務担当者を中心に構成された「資金運用委員会」にて立案し、学外有識者から聴取した客観的な意見を踏まえ、結果を理事会に報告している。当該委員会にて、年2回資金運用状況の分析・評価を行っている。

(大財務 10-2-9 順天堂資金運用規程)

(大財務 10-2-10 資金運用委員会施行細則)

資金運用計画における運用対象商品は、円建て債券・金銭信託・信託受益権等で、BBBリスク相当以上の格付けを有するものとされている。資金運用規程において、元本変動リスクのある金融商品及び期間5年超の中長期の資金運用については、予め理事長又は理事会の承認を得て実行するよう定められている。運用対象としている「特定資産」の残高は、2023(令和5)年度末時点で約140億円となっている。主な特定資産としては退職給与引当資産がある。その他、余剰資金を活用した運用を実施している。

(2)事業活動支出の状況

- 本学の事業活動支出を見ると、令和元年度以降、年平均5%を超える伸びが続いている。支出の構成を見ると、医療経費が4割を占めるほか、人件費、教育研究経費の順に大きな割合となっている。

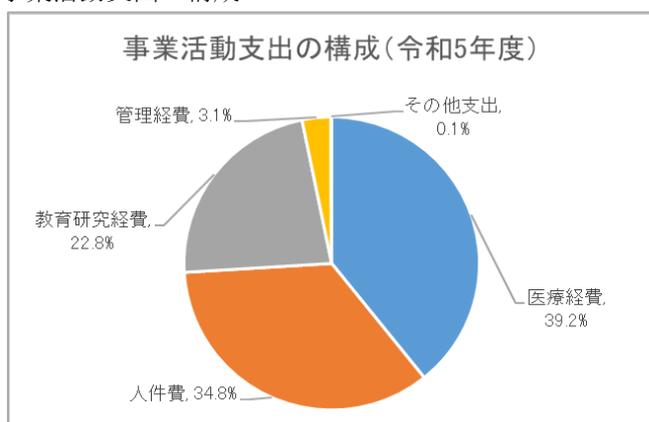
第10章 大学運営・財務 第2節 財務

- 各支出項目の推移を見ると、「人件費」は、附属病院における診療体制を更に充実させるため、医療スタッフを増員したことや、医療従事者の働き方改革による処遇改善などにより増加している。「医療経費」は、高度先進医療の提供のほか、医療収入の増加に伴う薬品費の増幅、薬品費や診療材料費の価格上昇などにより拡大している。「教育研究経費（医療経費除く）」及び「管理経費」は、光熱水費等の価格高騰の影響もあり、2021(令和3)年度以前に比べて増加している。2023(令和5)年度の光熱水費支出は、省エネによる節減努力などにより2022(令和4)年度よりも支出を抑制している。

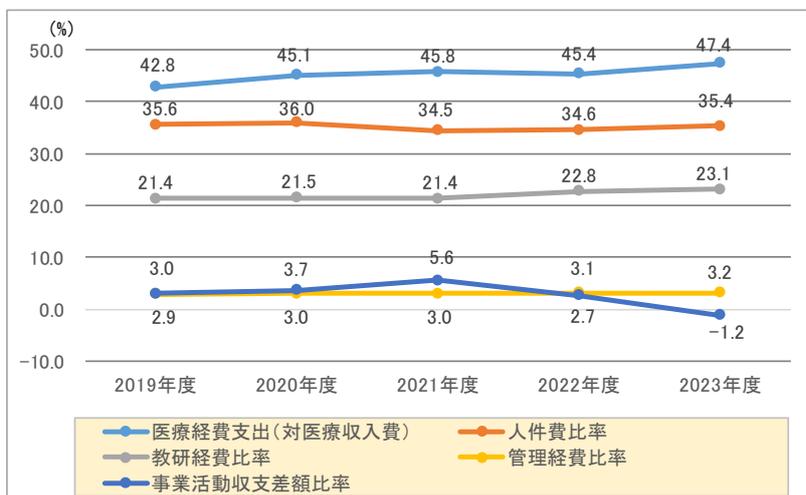
事業活動支出の伸び率

年度	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	平均伸び率 (過去5年)
前年度比	6.6%	2.2%	8.9%	6.3%	5.4%	5.7%

事業活動支出の構成



- 財務運営の健全性・安定性を測る指標として、事業活動支出の関連では、「人件費比率」、「教育研究経費比率」、「管理経費比率」、「医療経費比率」に着目している。人件費比率（経常収入に占める人件費の割合。以下の各経費の比率も同じ。）は、35%前後で安定的に適正な水準を維持している。医科・歯科系を含む複数学部を設置する大学の平均（41.3%、2023(令和5)年度決算）と比較して、本学の人件費は抑制されている。教育研究経費比率は、学部の新設などを背景に3年連続で上昇しており、過去20年で最も高い水準となっている。管理経費比率は、3%前後で推移し安定的に低い水準を保っており、他大学の平均（4.6%）よりも抑制されている。医療経費比率は、上述の理由により上昇傾向にある。



第10章 大学運営・財務 第2節 財務

事業活動収支計算書関係比率

	本学 (令和5年度)	医歯他複数学部 (令和5年度)	(参考)全大学法人 (令和5年度)
人件費比率	35.4%	41.3%	46.5%
教育研究経費比率	63.0%	51.6%	43.7%
うち教研経費比率	23.1%	22.4%	29.9%
うち医療経費比率	39.9%	29.2%	13.8%
管理経費比率	3.2%	4.6%	6.9%
事業活動収支差額比率	-1.2%	3.9%	3.8%
経常収支差額比率	-1.6%	2.2%	2.7%
基本金組入後収支比率	114.9%	104.9%	105.5%

以上のことから、本学の事業活動収支計算書に見られる単年度の財務状況としては、各種の要因により2022(令和4)年度から一部の指標で若干悪化したものの、貸借対照表に見られる財務基盤は依然として強固であり、引き続き安定的で健全な財務状況にあると言える。

2. 分析を踏まえた長所と問題点・課題

2-1. 長所

特になし

2-2. 問題点・課題

1) 収支バランスの改善

事業活動収支差額比率は、1999(平成11)年以降黒字を維持してきたが、2012(平成24)年をピークに徐々に比率が低下し、2023(令和5)年度はマイナスに転じている。マイナスが常態化しないよう、収支改善に向けた取り組みが求められる。

3. 改善・発展方策

3-1. 長所の発展方策

特になし

3-2. 問題点・課題の改善方策

1) 収支バランスの改善

収入の多様化に努め、安定的に外部資金を獲得できるような体制を構築するとともに、コスト意識を高め経費節減に努め、業務の効率化・省力化を推進すること等により、収支の改善に取り組むこととする。

4. 全体まとめ

本学は、堅調な基本金組入前当年度収支差額を維持しつつ、有利子負債の返済を進め、自己資金の充実を図ってきた。COVID-19の収束後も、円安・物価高と先行き不透明な社会環境下であるが、基本金組入前当年度収支差額を指標とした好調な収支状況を維持するため、積極的に公的及び民間

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

からの研究資金等外部資金の獲得に努め、医療収入については国の医療政策に迅速に対応し、ルールに則った適切な診療を行っていく。費用対効果の意識を徹底し、経費の合理化・低減化を図っていく。事業計画が滞りなく進捗するよう各部門・部局は適切な予算編成・予算執行を行い、更に法人全体の相互協力により安定的な財政基盤を構築していく。

2023(令和5)年度は諸々の要因により、基本金組入前当年度収支差額が25年ぶりのマイナスとなったが、これまでに積み上げてきた収支差額により、財務基盤は安定的といえる。今後はマイナスの収支差額を解消すべく、収支改善に取り組んでいく。

第10章 大学運営・財務 第2節 財務

5. 根拠資料

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
1	大財務 10-2-1	令和5年度事業報告書 主な財務比率の推移
2	大財務 10-2-2	学校法人順天堂 令和5年度事業活動収支計算書
3	大財務 10-2-3	学校法人順天堂 令和5年度貸借対照表
4	大財務 10-2-4	学校法人順天堂 令和5年度基本金明細表
5	大財務 10-2-5	令和5年度 財務比率表
6	大財務 10-2-6	財務計算書類（写）2016(平成28)～2023(令和5)年度
7	大財務 10-2-7	学校法人順天堂 令和5年度財産目録
8	大財務 10-2-8	5カ年連続財務計算書類
9	大研戦 10-2-1	令和元年度科学研究費助成事業交付決定一覧
10	大研戦 10-2-2	令和2年度科学研究費助成事業交付決定一覧
11	大研戦 10-2-3	令和3年度科学研究費助成事業交付決定一覧
12	大研戦 10-2-4	令和4年度科学研究費助成事業交付決定一覧
13	大研戦 10-2-5	令和5年度科学研究費助成事業交付決定一覧
14	大財務 10-2-9	順天堂資金運用規程
15	大財務 10-2-10	資金運用委員会施行細則